

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873100929		
法人名	有限会社大樹		
事業所名	グループホーム大樹 2号館		
所在地	茨城県東茨城郡茨城町越安1993		
自己評価作成日	令和6年 1月 18日	評価結果市町村受理日	令和 6年 4月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhou_detail_022_kihon=true&JigvoVoCd=0873100929-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和6年3月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境の中でそのらしさを大切にできているかと、職員間で日常的に話し合い、入居者様本意のケアに努めている。 ・代表者が無農薬野菜や米等を栽培し、季節の食材を食卓に提供し食の安全にも努めている。 ・庭には様々な木々を植え、果物を収穫したり、畑では野菜を育てたり、季節を感じられる様取り組んでいる。 ・ご家族とはオンライン面会や電話などで交流しています。 ・個室は全室南向きになっていて日当たりは良く、真冬でも日中は暖かく過ごしやすい環境である。 ・日中は鍵を掛けずに自由に出掛けられるよう見守りながら支援している。 ・健康管理では訪問看護師が入居者の健康状態の把握のため週1回訪問してくれている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は筑波山を遠望し、涸沼川が望め、地域の神社に隣接し、畑が広がる丘陵地に立地している。食事は代表者が生産した無農薬野菜やお米が食卓を賑やかにし、季節感を感じさせて、美味しいと好評を得ている。敷地内にはブルーベリーや梅、柿等の果樹が植えられ、収穫後のジャムや、梅干し、干し柿づくり等は利用者の記憶に残る季節の行事であり、季節感を楽しめるように配慮している。事業所内に自家水道が設置されており、災害時には近隣住民の給水を担うなど、地域に密着した事業所である。タブレット端末を活用し、事務の効率化にも努めている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護をして行く上で理念を基本とした介護が最も大切であり理念にあわない対応があった場合は職員間で注意し、理念を再確認した上で取り組んでいる	開設時に経営者と職員で考えた理念を玄関や事務室に掲示して確認している。利用者がこれまで過ごしていたような生活が継続できるよう、その人らしく過ごせるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者は地区内に住み、地域の行事に参加をし、また事業所周辺は地域の方の花や野菜畑が多く、日常的に顔を合わせる事も多く、散歩の際などは挨拶を交わしたり花や野菜など頂いたり顔見知りの関係にある	散歩時に挨拶を交わすなど日常的に交流しており、季節の野菜や花などの差し入れを受けるなど良好な関係となっている。地域住民に対する相談窓口を設けている。管理者が中学校へ介護に対する出前講座に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時には地域の方からの介護に対する疑問や質問を受けている 地域での独居高齢者の状況を把握し、緊急時には対応できるよう務めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時には、行政、地区役員、民生委員等の参加により年6回開催している	家族等の代表や町の職員、民生委員等が参加して定期的に開催している。徘徊者について意見交換をしたり介護相談に応じている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者の手続きや事業推進にあたり、町の担当者に相談、助言を受けている 福祉相談センターや地域包括支援センターとの連携も取っている	手続きや事業推進にあたり、町の担当者に相談したり助言を受けている。地域包括センターとの連携を諮っている。介護保険の更新等で窓口に出かける等の良好な関係が構築できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束は行わない」また身体拘束ゼロを目指し全ての職員が認識し介護にあたっている 身体拘束適正委員会を設置し勉強会を行っている なお玄関に身体拘束排除宣言書を作成し表示している また日中は玄関等にも鍵を掛ける事はせず見守りをしながら、当たり前の自由な暮らしが出来るよう支援している	身体拘束排除のための指針を作成するとともに定期的に委員会や勉強会を開催している。リビングにポスターを掲示し、日中は施錠をしないようにしている。スピーチロックなどについては都度職員間で話し合っており確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のポスターを掲示して、全職員が理解し、意識を高め虐待が見過ごされないようつとめている 研修や勉強会にて常に意識を持ちながら虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度では関係機関との連絡、調整を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項を説明し事業所で出来る事を明確に説明する ご家族からの疑問点を引き出し急変時または重度化について説明し同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の不満や苦情等は日頃から対話を重ね聞き出せるよう努めている またご家族にも苦情、要望等が気軽に出せるよう意見箱を設置している	重要事項説明書に相談窓口を明記して説明し、玄関には意見箱を設置している。苦情マニュアルを整備し、苦情や意見が出た場合には職員会議で話し合ったり、管理者会議に諮るなどの仕組みができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを取り、日々の業務の中でも職員の提案を聞く時間を設けている	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努め、業務の中でも提案を聞く時間を設けている。希望休の取りやすい環境であるほか、職員からの提案には迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も現場に入り職員一人ひとりの日々の努力を把握しており資格取得の支援に努めている 子育て期間中の職員には、土日、祝日、行事等休暇が取れるよう配慮している 各職員も希望休暇が取りやすい環境となっている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の向上心や力量を把握し、研修の機会を作ったり、内部研修にて個人のケアの質を上げるよう努めている 外部研修に参加した職員は得た知識、情報を他職員と共有できるよう研修記録の作成を行い、職員間の共有に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町の介護支援専門員協会に所属し他事業所、行政と情報交換の場となっている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今現在何が不安なのかご本人の思いと希望を真剣に受け止め、安心して日常生活を送れるよう個別にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の立場に立ち求めているものの理解に努め、ご家族の思いを受け止める努力をし、事業所としてどのような対応が出来るか話し合っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所として本人やご家族の思い、状況等を確認し出来る限りの対応に努めている また出来ない事は事業所だけで抱え込まず必要に応じて他のサービス機関につなげ早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩でもあり日常生活の中で学ぶことも多々ある中で、洗濯物を干したり、洗濯たたみ、食事の準備、片付けなど共に支え合う信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の最近の様子や健康状態はお便りや電話などで報告している 自宅への外泊や旅行など家族と一緒に過ごす時間を作れるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に相談し、外出や受診など協力をいただいている なじみの理容室に通えるよう連絡調整している 電話や手紙、遠方のご家族の方とはオンライン面会などで支援している	入居時の聞き取りなどで得た情報でフェイスシートを作成してこれまでの関係が継続できるような支援をしている。電話や手紙のやり取りを支援するほかオンラインでの面会にも対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を工夫したり、ソファに職員も座りコミュニケーションを図りながら、お互いが支えあえるよう支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても利用者のその後の経過などを聞いたり、相談にも応じ関係を断ち切ることなく大切にしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの人格を尊重し、普段の会話や表情から現状を把握して援助が出来るよう努めている 意思表示が困難な方は職員が問いかけをしたり、昔の情報をもとに対応している	意思表示の困難な利用者は、問いかけや昔の情報から把握し支援している。日々の支援の中で利用者の希望や思いを聴き取り、引き継ぎ時に口頭で伝え、情報の共有化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に生活歴等をご本人、ご家族より聞き、職員が把握し本人のこれまでの馴染みの暮らし方が継続出来るよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの出来る事出来ないことを把握し細かい点に配慮しながら、その時のご利用者の状態や気持ちを理解して支援に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者がその人らしく暮らせるようご本人や、ご家族の要望と医療関係者の意見を踏まえ、介護計画作成にあたっている また実現可能な計画になるよう担当者会議でモニタリングや課題となる項目を話し合っている	家族等や本人の意向を基に医療関係者の意見を聞いて介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを行い、基本半年で見直しを行っている。利用者の状況に変化が生じた場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の利用者の訴えや暮らしぶりを個別に記録し、食事量・水分・排泄状況をチェックし全職員が把握できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化により、医療依存が高くなった場合等には、積極的に訪問看護を入れるなどして、手厚いケアが行えるよう支援している また少しずつではあるが、外出や外泊など、ご家族との団らんの時間を過ごせるよう支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や消防署、福祉施設等との連携を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医との関係を大切に、ご利用者やご家族等の希望するかかりつけ医への受診を支援している ご家族の付き添いで受診しているご利用者もいる また月1回協力医療機関の医師による往診がある	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。協力医療機関の医師による往診が月1回ある。訪問看護は週1回あり、緊急時の24時間連絡体制が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携を結び週1回受けている 個別の受診ノートでその日の体調や今後のケアを共有している 緊急時24時間の連絡体制が確保されている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の援助方法に関する情報、サマリー等を医療機関に提出 ご家族とも情報交換しながら職員が頻繁に見舞い、その際ご本人の状態を医師・看護師から得ている 退院後スムーズにホームにて生活ができるよう情報提供書を頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者・ご家族・職員と情報を共有し、協力医療機関の医師や訪問看護ステーションの看護師に相談をし、助言をいただきながら支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応および看取りに関する指針がある。ターミナルケア、精神的ケア対応マニュアルを整備している。看取りをする際には状況の変化に応じて段階的な合意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会にて、応急手当等の知識を得ている 急変時、事故発生時のマニュアルを作成し、全職員が落ち着いて対応できるよう努めている 訪問看護ステーションと24時間連絡体制を取っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署指導の下、避難訓練を実施している 訓練後の反省など職員で話し合い記録に残している	地震や水害を想定した訓練を行っているが夜間想定の実施は至っていない。反省会を行い課題について話し合っているが次の訓練に活かすまでには至っていない。災害に備え、備蓄品を管理者宅に保管している。	夜間想定の実施と、訓練で得られた課題を次回の訓練に活かす取り組みを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重した介護を心がけ支援している 特に排泄への声かけには十分に配慮しプライバシーを傷つけないように努めている	利用者の尊厳に配慮した言葉かけに努めている。排泄支援の際の声掛けには耳元で囁くなどプライバシーに配慮の上でケアしている。人権尊重や守秘義務について研修を行っている。	項目別の承諾書形式の肖像権の同意書の作成と、個人別の面会票の作成を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や嗜好の把握に努め、日常生活の中で表出できるよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者本位を追求し、その方の生活リズムや希望に合わせている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいお洒落ができるよう本人の意向を聞きながら、近隣の理容室への支援をしている またなじみの理容師が訪問し、支援してくれている 外出が困難な利用者は訪問理容を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者と職員が出来る限り、準備や下膳など一緒に行っている 季節を感じられるよう施設で収穫した食材を取り入れ、下準備を協力していただき、献立を一緒に考え、楽しめるよう支援している ご利用者が苦手なメニューなどある場合は代替食を用意している	正月は餅を小さく切って、お雑煮を提供したり、おやつはホットケーキやお好み焼き、ゼリーを手作りするほか、利用者と一緒に干し柿やブルーベリージャムを手作りしている。地産地消を心掛け地元の食材を使用している。米は管理者の父が耕作し食材にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量・水分量を個別に記録している また個別の食事形態を把握し、刻み食、ペースト食、とろみ食など応じて提供している 苦手な献立等は他の献立に変えて対応している水分摂取が少ない方にはゼリーにして支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に義歯と自分の歯のケア またスポンジで口腔ケアを実施している 夕食後は義歯をお預かりし、洗浄、消毒を実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個別の排泄パターンを把握 声かけ誘導を促し可能な限りトイレでの排泄を行っている	寝たきりの利用者も二人介助で行うなどできるだけトイレでの排泄支援を行っている。便秘対策としてトイレでの自立排泄を支援することに加えて腹部マッサージを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を朝昼夜の食事の際と10時15時のおやつとの時間と摂取量を把握し一人ひとりの好む飲料や野菜の多い食事にて対応し自然排便につながるよう努めている ご利用者の希望により乳製品を召し上がる方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日の入浴日があり、個々の希望に合わせて入浴して頂いている ご利用者の状態によりシャワー浴や足浴、清拭等にて対応している	季節の湯として柚子湯の実施をしている。利用者それぞれの好みのヘアケア用品を使用している。体調に合わせてシャワー浴や足浴に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのリズムを把握し安心して休息、睡眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬のファイルを作成し職員が内容を把握できるようにしている 服薬チェックを2人で行い誤薬防止に努めている 服薬時には本人に手渡し服用を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物たたみ、食事の後片付けなど日課としている利用者の力を活かした役割で生活に張り合いがもてるよう支援している ホーム内の畑で果物や野菜を収穫し、加工したり楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	事業所周辺の散歩や散策に出かけている。 外泊、外出、外食、旅行など家族や親戚と一緒に過ごせるよう支援している	散歩コースは田畑が広がり緑豊かな場所になっており、作物の成長や木々の変化から季節の変化を感じられるよう配慮している。広いウッドデッキでは、日光浴や健康体操を行ったり、お茶を飲んだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回ヤクルトの訪問販売があり、自分で買うことを楽しみにしているご利用者がいる また管理が困難なご利用者にはご家族より預かり個別に使用を記入し報告している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が掛けたい時はいつでも電話をかけられるよう対応している またご家族からかかってくる場合もあるので、時には職員の方から声を掛けて促してみる時もある 携帯電話を持っている方は好きな時間に家族と連絡を取り合っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は南向きになっており、冬は暖かく利用者にとってソファは居心地の良い場所になっている リビングにはひな人形、七夕などを飾り季節や生活を感じていただけるよう努めている 夏にはゴーヤなどでグリーンカーテンを作成し直射日光を遮る工夫をしている	玄関に至る通路には季節の花が植えられ、自宅同様に和やかな雰囲気を醸し出している。開放感のある居間兼食堂は天窓を通じて明るい陽光が差し込み、温度湿度管理がなされた、清潔感にあふれた快適な生活空間になっている。和室では、雛飾り等の季節の行事の合わせた飾り物が展示され、季節感を感じさせられるよう配慮している。ソファが設置され、利用者同士が会話を楽しんだり、ひとり寛げる場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置いて、くつろげるよう配置している 食堂脇には小上がりがあり、思い思いにくつろげるよう工夫している デッキにもイスやテーブルを置き、いつでも景色を眺めたり、お茶を飲んだりできるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が馴染みの家具やテレビ、または冷蔵庫を置き、花が好きな利用者には植木鉢や生花を飾り思い思いに居心地の良い様に支援している 仏壇の仏花はホーム内で育てている花を飾っている	事業所は利用者、家族等に使い慣れたもの、馴染みの物を持参し、自宅同様過ごせるよう説明している。居室前には手書きの表札がかけられている。自室を箒で掃くなど掃除をする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・浴室・トイレなどにプレートを掛け混乱のないよう工夫している 移動の妨げになるようなものは置かないようにしている		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム大樹

作成日 令和 6年 4月 9 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地震や水害を想定した訓練を行っているが、夜間想定訓練を行うまでには至っていない。反省会を行い課題について話し合っているが、次の訓練に活かすまでには至っていない。	夜間想定訓練を行い、反省会で出た課題には次の訓練に行かせるよう明確にする。	夜間訓練は9月に実施予定。課題については運営推進会議等を活用し前回出来ていなかったことをテーマに話し合う機会をつくる。または訓練前に確認し目標達成できるよう明確にする	6ヶ月
2	36	項目別の承諾書形式の肖像権の同意書と、個人別の面会票の未作成	項目別の承諾書形式の肖像権の同意書と、個人別の面会票を作成する	項目別の承諾書形式の肖像権の同意書を作成。面会票は個人別に作成する。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。